

ISO 幹事国活動

1. 国際規格発行に関する進捗状況

(1) DIS投票結果および各国コメントが SC へ回されたもの: 3 件

DIS 683-15 (SC 4): 磨き棒鋼 (10-09)

DIS 6935-3 (SC 16): 鉄筋用鋼-溶接金網 (10-14)

DIS 9477 (SC 11): 高強度鋳鋼 (10-09)

(2) 新作業項目が提案されたもの: 2 件

SC 11: マンガン・オーステナイト鋼

SC 11: オーステナイト鋼のフェライト量の測定

2. TC 17 (鉄鋼) 関係

(1) ISO/TC 17 総会準備

1) 北米訪問

a) Standard Council of Canada (SCC) を訪問し、総会議題について意見を交換すると共に、総会へのカナダの出席を強く要請した。

b) ASTM にて米国 TC 17 代表に会って、総会提出資料についてコメントを求め、米国の総会出席者を確認した。

c) Steel Founders' Society of America (SFSA) を訪問、SC 11 (鋳鋼) の問題、特に遠心铸造管の取扱いにつき討議、さらに総会資料につき討議した。

2) 韓国訪問

韓国鉄鋼協会を訪問し、TC 17 全般、総会議題について説明を行い、韓国にとって TC 17 京都総会は鉄鋼の ISO 活動を理解する絶好のチャンスであると指摘して、出席を促した。韓国としても是非出席したいと言っていた。

3) 10 月 28 日現在、米、英、仏、独、伊、ノルウェー、スウェーデン、ソ連、中国、日本の 10 か国が参加登録をすませており、これに上記の韓国、カナダが参加すれば 12 か国となって、前回のオスロ大会を上回り、遠隔地開催で望みうる上限に近づく。

4) 会場となる京都市国際交流会館を訪問し、詳細打合せを行った (10 月 25 日)。

5) 現地会場での文書作成に必要な携帯型パソコン及びプリンターを購入し、習熟中である。

6) その他、宿泊、記念品、電話、コピー機等庶務事項順調に進捗中。

(2) SC 11

第 10 回 SC 11 国際会議

開催日: 1991-09-30/10-01 WG 7,8,9,10

10-02/03 全体会議

開催場所: SVUM (材料研究所)/Brno/Czechoslovakia

出席者: Czechoslovakia(3), France (1), Germany(2), Poland(1), UK(1), USA (2, Chairman), 中央事務局

(1), TC 17 (1) 計 12 名

主な議事内容:

1) WG 7: 溶接手順の許認可 ISO/TC 44, ECISS/TC 121/WG 1, ECISS/TC 31/WG 4 も同様の規格作成を手がけつつあるのでそれらとの Liaison を図り SC 11

が中心となって進める。次回 WG 会議で再度議論。

2) WG 8: 表面検査

次回 WG 会議で再度議論。

3) WG 9: 耐食鋼

Duplex 鋼を含めて規格化。CD 登録して SC 11 に回付する。

4) WG 10: 耐熱鋼

50Co-27Cr 鋼を含むこととした (ただし TC 17 会議での了承を得る)。CD 登録して SC 11 に回付する。

5) New Work Item

a) 寸法精度: TC 3 が進めている ISO/DIS 8062 を回付しコメントをまとめたいので、共同作業とするかどうかを判断し TC 3 と連絡をとる。

b) 遠心铸造パイプ: SC 11 が中心となって WD を作成したい。責任をどちらが持つか SC 19 と話し合い、調整がつかない場合は TC 17 会議で決定する。

c) マンガン・オーステナイト鋼、オーステナイト鋼のフェライト量の測定新項目の提案を回付することとする。

(3) SC 16-鉄筋用鋼-

ISO/TC 17/SC 16 国際会議

期日: 10 月 15 日 (火)~17 日 (木)

出席者: Czechoslovakia(1), France(1), Germany(2), Israel(6), Japan(1), Norway(1), UK(1), USA(1)

場所: テルアビブ市、イスラエル規格協会会議室

Chairman の Mr Hagberg, Secretary の Mr Mønnesland 共に都合で出席できないこととなり、Chairman に米国の Mr Gustafson, Secretary にイスラエルの Mrs Hizi を臨時に依頼して開会となったが、準備不足はいかんともし難く、不十分な審議となった。審議事項

1) ISO/CD 10606: 最大荷重伸びの決定法

南ア、ノルウェーからのコメントを中心に議論され、chapter 5 と 7 を一部修正すること、及び修正した CD を再度メンバーに配布し次回会議で再討議することとした。

2) ISO project 11603: 耐食被覆鉄筋 Part 1~4

相当する規格を有する独、英、米、ノルウェーの四代表に日本を加え、臨時の WG を結成、3 日目に審議した。次回継続審議する。

3) 鉄筋のヨーロッパ規格案 (pr EN 10080)

• ISO 3766 と 4066 の改訂版

• TC 17 総会への提言

等については、Mr Mønnesland 欠席のため、あまり議論されずに終わった。

3. TC 17/SC 1 (化学成分分析) 関係

(1) Publication stage (Stage 5): 現況は次のとおり。

1) TR 9769 (鉄鋼分析方法の概要) (3rd edition); 中央事務局にて印刷中。

(2) Approval stage (Stage 4): 現況は次のとおり。

1) DIS 10697-1 (sol Ca-原子吸光法); 中央事務局にて proof 作成中。

2) DIS 10714 (P-吸光光度法); 投票結果のコメントに基づき最終 DIS 作成中。中央事務局への提出期限

1991-12-23.

(3) Committee stage (Stage 3): 現況は次のとおり.

1) CD 10698 (Sb-無炎原子吸光法); 最終 CD 案及び無炎原子吸光法通則内容検討, 修正案作成. コンビーナ宛返送. CD 投票準備中.

2) CD 10702 (N-蒸留滴定法); 最終 CD(案)を仏訳中. 期限 1991-10-31.

3) CD 4830-4 (C-燃焼電量法); 1992 年のロンドン会議まで取扱い保留.

(4) Preparatory stage (Stage 2): 現況は次のとおり.

1) WG 12 (Mn-プラズマ) (CD 10278); 共同実験中. 報告期限 1991-11-15.

2) WG 17 (Ca-原子吸光法) (CD 10697-2); 共同実験完. 解析結果をコンビーナに送付 (1991-10-31).

3) WG 20 (GC-燃焼赤外線吸収法) (CD 10719); 共同実験終了, コンビーナが報告書作成中.

4) WG 21 (Al-原子吸光法) (CD 10699); 共同実験中, 実験データ回収中.

5) WG 22 (Mn-原子吸光法) (CD 10700); コンビーナが報告書完了. 内容につき打合せ予定 (1991-11-05).

6) WG 25 (S-吸光光度法) (CD 10701); フランスからの共同実験データ未回収のまま統計解析済.

7) WG 27 (N-融解熱伝導率法) (CD 10720); 共同実験中. 報告期限 1991-10-31.

8) WG 28 (Si-重量法); 共同実験報告書作成中.

9) WG 29 (Co-原子吸光法); 共同実験データ一部未回収のまま統計解析終了.

10) WG 30 (Co-電位差滴定法); 共同実験中, 実験データ回収中.

11) WG 31 (Mo-吸光光度法); 共同実験報告書作成中.

12) Ad hoc group (Low C); 予備共同実験完了 (1991-09-30). データ整理中.

(5) ISO 377-2 (鋼材の試料及び試験片の採取と調製の改訂

WD を作成しメンバーに回付 (1991-09-19). コメント回答期限 1991-10-31. 英国, フランスのコメント聴取 (1991-09-26/27).

(6) 原子吸光法, ICP 発光分析法ガイドラインの規格化

新作業項目提案の投票締切 (1991-09-10). 回答をしてきた 12 か国は 100% 賛成. なお, TC 47 と共同作業で規格化を図ることで合意した (1991-09-25).

TC 102, TC 155 は共同作業を検討中.

(7) ECISS/TC 20 (鉄鋼分析) 会議

11 月 7 日, 8 日 於: パリ

先方よりの Invitation にもとづき出席予定.

4. TC 67/SC 5 (油井管) 関係

(1) 第 8 回 TC 67/SC 5 諮問部会 (10 月 15 日開催)

TC 67/SC 5/WG 1 (油井管規格原案作成) へ提出の日本コメントの最終決定をした. WG 1 は 10 月 21, 22 日開催予定で, 日本から NHK・柴田氏, 住金・鹿島氏が出席した.

(2) TC 67/SC 5 P メンバーの増強

カナダに対して国内関係者での検討を要請した. 中国から P メンバーとして参加の希望があり, 担当機関を明確にするように中国技術監督庁に要請した.

5. 国内会議

TC 67/SC 5 諮問部会: 10 月 15 日, 奈良部会長他 10 名

SC 20 分科会: 10 月 23 日, 濱田主査他 7 名

鉄鋼技術情報センター**鉄鋼技術情報センター新着図書**

照会先: 鉄鋼技術情報センター 電話 03-3241-1228

書名	著者・編集者名	出版年	頁数
全国試験研究機関名鑑 第 I 巻~第 III 巻	全国試験研究機関名鑑編集委員会	1991	3 213
ASM Handbook Volume 4 Heat Treating	ASM International	1991	1 012
中小形工場レイアウト集 (第 5 版)	日本鉄鋼協会	1991	39
中小形分科会 70 回の歩み [1956~1991]	日本鉄鋼協会	1991	337
研究開発事始	(株)日鉄技術情報センター	1991	273
鉄鋼統計要覧 1991 年	(社)日本鉄鋼連盟	1991	343
全国短大・高専職員録 平成 3 年版	廣潤社	1991	1 220
中部電力 40 年史	中部電力(株)	1991	775
腐食損傷を受ける鉄鋼材料の寿命・余寿命評価マニュアル	日本鉄鋼協会	1991	277
Wege und Wegmarken 100 Jahre THYSSEN 1891-1991	THYSSEN	1991	348